

【単元名】 資料を効果的に使った書き方の技を意識して、6年生に納得してもらえる環境問題に対する意見文を書こう。

【教材名】 「固有種が教えてくれること」「自然環境を守るために」（光村図書）他、関連図書

【単元目標】

- ・原因と結果など情報と情報の関係について理解する。（知）
- ・文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方を考えたりして読む。（思）
- ・環境問題について調べ、資料を使った書き表し方を工夫して意見文を書く。（思）
- ・自分の主張したいことが伝わるように事実や考えたことなどを関係付けたり比較したりしながら、効果的に書き表そうとする。（主）

【指導事項】 ◎原因と結果など情報と情報の関係について理解すること。（知（2）ア）

◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。（思B（1）エ）

◎目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。（思C（1）ウ）

○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。（思C（1）ア）

【言語活動】 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動【意見文】（Bア）

【評価規準】

○知識・技能…原因と結果など情報と情報の関係について理解している。（（2）ア）

○思考・判断・表現…

「書くこと」において、引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B（1）エ）

「書くこと」について目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（C（1）ウ）

「読むこと」において、感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C（1）ア）

○主体的に学習に取り組む態度…粘り強く文章と図表などを結びつけて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

【単元計画】（全13時間）

第1時 「固有種が教えてくれること」を読み、初発の感想を書く。これからの学習計画を立てる。

第2時 「固有種が教えてくれること」の文章の構成を押さえ、要旨をまとめる。

第3時 「固有種が教えてくれること」の文章と資料の結びつきとその効果について考える。

第4時 「固有種が教えてくれること」の筆者の考えや説明の工夫について自分の考えをまとめる。関心のある環境問題を選ぶ。

第5、6、7時 自然環境や環境問題に関する本、インターネットの情報を通して、自分の主張を裏づけるための根拠、統計資料を集める。

第8時 集めた統計資料を同じ環境問題を選んだ友達と共有する。意見文で使う資料を2～3点選定する。

第9時 自分が書きたい文章の構成を考える。

第10、11、12時 ・構成メモを基に、資料を効果的に使った書き方の技を意識して、自分の考えを文章に書き表す。 【本時10/13】

・文章と資料が効果的に結びついているかを友達同士で読み合い、修正し、意見文を完成させる。

第13時 書き上げた文章を6年生に読んでもらい、意見をもらう。学習の振り返りをする。

【本時目標】 主張に合う資料を効果的に使って、環境問題に対する意見文を書く。

学習活動

◆導入◆【課題の設定】

- 本時のめあて、活動内容を確認する。
- 学習カードで前時に立てた自分のめあてを確認する。

◆展開1◆【情報の収集】【整理・分析】

- 学習カードにそって活動に取り組む。
 - 1.自分の主張を示す。
 - 2.自分の主張の根拠となる資料の中で注目してほしい数字を取り上げたり、何がわかるのかを明確にしたりして、本文と資料の関連を示しながら文章を書く。
 - 3.同じ環境問題を選んだ友達や、それ以外の友達と意見文を読み合いながら、より良い文章にする。※1から3については、児童の進度や、児童ごとの学習計画によって異なる。

◆終末◆「まとめ・表現」

1. 学習カードを用いて、振り返りを行う。
2. 次回の活動の確認をする。

指導の手立て 【★評価】

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- 具体的なめあてが立てられるように資料を効果的に使った書き方の技からどの言葉が使えるのか選択肢から選べるようにしたり、友達が立てためあてからヒントを得たりしてもいいことを助言する。

【「協働的な学び」を目指すための手立て】

- 自分たちの学習カードをクラスで共有し、一人一人のめあて、学習進度をいつでも確認できるようにする。
- 同じ環境問題を選んだ友達同士で少人数のグループを作り、困ったことがあればすぐに相談できるようにする。
- 「固有種が教えてくれること」で学習した資料を効果的に使った書き方の技を自分の文章や友達の文章で使えているか確かめられるように掲示する。

- 資料の注目して欲しいポイントが書いていない本文を板書し、どんな言葉を追加するべきか全体で共有してから活動に入る。

◎資料を効果的に使った書き方の技

「資料①は～を示している。」 「図1は～」 「～が分かる。」
「～に対し、～」 「一番多いのは～」

- 図表やグラフなどを用いて文章を書くことが難しい児童には、同じグループの友達の文章を参考にするように声かけをしたり、前時までに作ったクラゲチャートを見ながらどこに何を書くのか指示したりする。
- 図表やグラフなどを用いて文章を書くことができている児童には、同じグループの友達や違う環境問題を選んだ友達と文章を読み合い、資料を効果的に使った書き方の技が使えているか確認をするように声をかける。

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- めあてを達成できたのか、達成するためにどんなことをしたのか、達成できなかったのであれば、次回どんなことを頑張りたいのかを振り返りに書けるように十分な時間を確保し、観点を板書する。

★自分の考えに合った資料が何を示しているのか、どこに注目して欲しいのかなど本文との関連を示しながら自分の主張に納得してもらえるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)エ) 【活動の様子、学習カードの内容】